



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送りください。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

東京大学宇宙線研究所助教（高エネ天体）

1. 助教 1名
2. (1) 高エネルギー宇宙線部門・高エネルギー天体グループ
(2) 宇宙線研究所（千葉県柏市）
3. および4.
高エネルギー宇宙線部門・高エネルギー天体グループに所属し、宇宙線の加速・伝播・輻射過程など、宇宙線物理学・高エネルギー天体物理学の理論的研究を進めていただきます。宇宙線研究所内外の観測グループと密接に協力し、共同研究の積極的な推進役となることを期待します。
5. (1) 平成25年4月1日以降なるべく早い時期
(2) なし
6. なし
7. (1) 履歴書（電子メールアドレスを必ず記入してください。）
(2) 研究歴（A4判3ページ程度）
(3) 業績リスト（論文リスト、研究発表リスト等）、および主要論文（3編以内）。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにしてください。
(4) 着任可能時期
(5) 着任後の研究計画（A4判3ページ程度）
(6) 推薦書または意見書2通
8. 平成24年12月14日（金）17時必着。
9. (1) 〒277-8582 千葉県柏市柏の葉5-1-5

東京大学宇宙線研究所長 梶田隆章

Tel: 04-7136-3100

Email: kajita@icrr.u-tokyo.ac.jp

- (2) 〒277-8582 千葉県柏市柏の葉5-1-5

東京大学宇宙線研究所 寺澤敏夫

Tel: 04-7136-5173

e-mail: terasawa@icrr.u-tokyo.ac.jp

10. 書類は「宇宙線研究所助教（高エネルギー天体）応募書類在中」と朱書きし、書留で郵送（海外在住者は書留に相当する方法で送付）してください。推薦書あるいは意見書は、評価者から直接、郵送または、下記メール宛先まで送付すること。ファイル形式はpdfとする。推薦書、意見書の電子メールによる提出に対しては、受信した旨の返信をいたしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。
11. 選考委員会による書類選考（第一次審査）を行い、最終選考は面接によります。「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。

東京大学宇宙線研究所助教 （重力波推進室神岡分室）

1. 助教 1名
2. (1) 宇宙線研究所重力波推進室神岡分室
(2) 岐阜県飛騨市神岡町
3. および4.
平成22年度に建設が開始された大型低温重力波望遠鏡(KAGRA)において装置の建設およびコミッショニングを行う。特に干渉計のエレクトロニクスの整備に責任をもってあたれる方。それと共に、観測開始後はデータ解析において積極的に研究を進められる方。今までの研究分野については問わない。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) なし
6. なし
7. (1) 履歴書（電子メールアドレスを必ず記入して

- ください)
- (2) 研究歴 (A4判3ページ程度)
 - (3) 業績リスト (論文リスト, 研究発表リスト等), および主要論文 (3編以内).
提出する論文については論文リストに印を付け, 一目でわかるようにすること.
 - (4) 着任可能時期
 - (5) 着任後の研究計画 (A4判3ページ程度)
 - (6) 推薦書または意見書2通
8. 平成24年12月14日(金) 17時必着.
 9. (1) および (2)
〒277-8582 千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学宇宙線研究所長 梶田隆章
Tel: 04-7136-3100
e-mail: kajita@icrr.u-tokyo.ac.jp
 10. 書類は「宇宙線研究所助教(重力波)応募書類在中」と朱書し, 書留で郵送(海外在住者は書留に相当する方法で送付)してください. 推薦書あるいは意見書は, 評価者から直接, 郵送または, 下記メール宛先まで送付すること. ファイル形式はpdfとする. 推薦書, 意見書の電子メールによる提出に対しては, 受信した旨の返信をいたしますので, 必ず当方からの返信の有無を確認してください.
 11. 選考は, 書類選考の後, 面接を受けていただくことを原則とします. (面接を受けていただく方には詳細を連絡します.) 「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき, 女性の応募を歓迎します. 書類は「宇宙線研究所助教(重力波)応募書類在中」と朱書し, 書留で郵送(海外在住者は書留に相当する方法で送付)してください. 推薦書あるいは意見書は, 評価者から直接, 郵送または, 下記メール宛先まで送付すること. ファイル形式はpdfとする. 推薦書, 意見書の電子メールによる提出に対しては, 受信した旨の返信をいたしますので, 必ず当方からの返信の有無を確認してください.

**名古屋大学大学院 理学研究科
素粒子宇宙物理学専攻 教員**

1. 准教授もしくは助教・1名
2. (1) 素粒子宇宙物理学専攻 天体物理学研究室 (A研)
(2) 名古屋大学大学院理学研究科 (名古屋市千種区不老町)
3. 天文学

4. 電波天文学の研究南米チリなどで進めている電波望遠鏡の運用・機器開発をリードし, 学術成果を上げていただける方を求めます. チリへ長期出張していただく可能性があります. また, 大学院および学部教育を担当していただきます.
5. (1) 2013年3月1日以降できる限り早い時期
(2) なし
6. 大学院博士課程修了またはそれと同等以上の方
7. ○履歴書○研究歴(これまでの研究内容の概要を含む) ○研究計画○業績リスト(主要論文3篇以内を明記すること)(査読論文とそれ以外を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと.) ○本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2012年11月30日(金) 必着
9. (1) 〒464-8602 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学大学院理学研究科
物理学教室主任 神山 勉
(2) 名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻 福井康雄
Tel: 052-789-2837
e-mail: fukui@a.phys.nagoya-u.ac.jp
10. (1) 封筒に「電波天文学准教授人事応募書類在中」, または「電波天文学助教人事応募書類在中」と朱書し, 郵送の場合は簡易書留でお送りください. (2) 応募書類は, 特に申し出がない限り返却しません. (3) 書類選考の後, 場合によっては面接を行います.
11. 本学の准教授もしくは助教の公募に関連して提出されたすべての個人情報については, 選考の目的に限って利用し, 選考終了後は, 選考を通過した方の情報を除き, すべての個人情報を責任をもって破棄いたします. また, 本学では男女共同参画を積極的に推進しており, 当物理教室の教員人事では, 評価が同等なら女性を積極的に採用する場合があります.

**国立天文台チリ観測所 ARC サイエнтиスト
(特任准教授または特任助教)**

1. ARCサイエнтиスト(特任准教授または特任助教), 若干名
2. (1) 国立天文台チリ観測所東アジアALMA地域センター(ARC)
(2) 東京都三鷹市
3. 電波天文学
4. ARCにおいてALMAの科学運用に参加すると

もにALMAを用いた科学研究活動を行う。

応募に当たっては以下のリンクにある職務の詳細を必ず参照してください。

<http://alma.mtk.nao.ac.jp/j/recruit/index.html>
(和文)

<http://alma.mtk.nao.ac.jp/e/recruit/index.html>
(英文)

5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 5年. 再任なし.
6. 天文学またはそれに関連する博士の学位を有するか、またはそれと同等以上で、下記の能力、知識や経験を有する方.
 - ・電波観測装置を用いた観測的研究の推進に意欲的に取り組めること
 - ・外国人と議論し共同作業ができる英語力を有すること
 - ・他のスタッフと協力・協調して、科学運用科学評価活動およびユーザー支援業務に意欲的に取り組めること
7. 以下の書類(英語)をPDFファイルとして電子メールに添付して送付する.
 - (1) カバーレター(特任准教授、特任助教のどちらに応募するかを明記する)
 - (2) 履歴書(研究歴も含める: 個人としての研究業績のほか、多人数で行った研究・開発プロジェクトの場合は果たした業績を具体的に記入する)
 - (3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し、共著の場合は役割分担を記す)
 - (4) 主要論文3編のPDFファイル
 - (5) 職務に対する抱負と計画(研究計画も含める)
 - (6) 本人について意見を述べられる方2名以上の連絡先
8. 2012年12月6日(木) 17時(日本時間) 必着
9. (1) 国立天文台チリ観測所 所長 長谷川哲夫
提出用 e-mail:
chile.application@alma.mtk.nao.ac.jp
(2) 国立天文台チリ観測所 東アジアALMA地域センターマネージャー 立松健一
e-mail: k.tatematsu@nao.ac.jp
問い合わせには「チリ観測所 ARCサイエンティストの件」である旨を明示すること.
10. 応募書類を添付した e-mail の Subject には「チリ観測所 特任准教授・特任助教応募」と明記すること. 応募書類の e-mail を受け取ったら、折り返し確認の e-mail を送ります. もし、応募書類

を送ってから2日(休日を除く)経過しても確認の e-mail が届かない場合は、chile.inquiry@alma.mtk.nao.ac.jp までお知らせください。

11. 採用審査: 書類および面接により候補者を選考し、国立天文台運営会議の議を経て国立天文台年俸制教官として採用を決定します.
身分・待遇: 裁量労働制の職員として、おおむね国立大学准教授または助教と同等の年収となる給与および通勤手当等が支給されます. 健康保険、年金については文部科学省共済組合に加入していただきます. ボーナス、退職金の支給はありません. 科学研究費補助金の応募資格があります. 国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています. 詳しくは <http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/danjokyodo/> をご覧ください.

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

国立天文台助教(チリ観測所・先端技術センター)

1. 2012年5月(第105巻5号)
2. 小嶋崇文(NTTマイクロシステムインテグレーション研究所)
3. 2012年9月1日

国立天文台教授(チリ観測所, 三鷹勤務)

1. 2012年8月(第105巻8号)
2. 井口 聖(国立天文台准教授)
3. 2012年10月18日

国立天文台准教授(チリ観測所, 三鷹勤務)

1. 2012年8月(第105巻8号)
2. 伊王野大介(国立天文台助教)
3. 2012年10月18日

研究会・集会案内

名古屋大学大学院理学研究科・ 名古屋市科学館共催 第11回 坂田・早川記念レクチャー

「高エネルギー加速器の不思議」

生出勝宣氏：高エネルギー加速器研究機構 教授
高エネルギー加速器研究機構 加速器研究施設長

平成24年12月22日(土) 14:00-16:30

名古屋市科学館サイエンスホール

■対象：高校生以上

■定員：300名(申込み制, 多数の場合は抽選)

■受講料：無料(ただし, 科学館の観覧料が必要で
す。(高校生, 大学生200円/大人400円))

■講演会ホームページ:

<http://www.hepl.phys.nagoya-u.ac.jp/SakataHayakawa2012/>

～集まれ, 科学者を夢見る若者たち!～

名古屋大学大学院理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻は, 素粒子物理学と宇宙物理学の両分野における世界の研究の発展に寄与し, ノーベル賞受賞者をはじめ, 多くの人材育成に関わってきました。坂田・早川記念レクチャーは, 坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえつつ, 21世紀を担う研究者の発掘および育成を目的として設けられました。

第11回となる今回は, 粒子加速器科学の第一人者である生出勝宣氏をお招きします。Bファクトリー実験による小林・益川理論の検証や, LHC実験によるヒッグス粒子と思われる新粒子の発見など, 最近の素粒子物理学の偉大なる成果は, 最先端の加速器の存在によって達成されています。生出氏は, 小林・益川理論を検証したKEKB加速器(高エネルギー加速器研究機構)の建設と性能向上に本質的な役割を果たし, SuperKEKB加速器, J-PARC加速器, そして将来計画であるリニアコライダ加速器のデザインや開発を主導しています。

粒子はどうやって光速近くまで加速されるのか? 極微の粒子同士をどうやってぶつるのか? あまり聞かないけれども素粒子物理学にとって最も重要な加速器についてお話を伺います。

申込方法: インターネットか往復はがきによる申込みが可能です。

(申込みで寄せられた個人情報は, 本セミナーの運営に必要な範囲でのみ使用します)

1) 講演会ホームページ

<http://www.hepl.phys.nagoya-u.ac.jp/SakataHayakawa2012/>からお申込み。

(2012年12月8日まで受付)

2) 往復はがきに, 住所, 氏名, 高校生・大学生・一般・その他の区分, 電話番号, 返信部分に申込者の宛名を記入して,

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17-1

名古屋市科学館「坂田・早川記念レクチャー」係まで郵送。

申込締切: 2012年12月8日(土) 必着

問合せ先: 講演の内容等に関する問合せ

〒464-8602 名古屋市中千種区不老町

名古屋大学大学院理学研究科

高エネルギー素粒子物理学研究室(N研)

Tel: 052-789-2902(担当) 戸本

e-mail: shlecture@hepl.phys.nagoya-u.ac.jp

申込方法, 会場に関するお問合せ

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17-1

名古屋市科学館

Tel: 052-201-4486(担当) 天文係 持田

注: 高校などでまとまって参加希望される場合は, 問い合わせして下さい。

会務案内

【日本天文学会理事会議事録】

日時: 2012年9月19日(水) 13:00-14:00

場所: 大分大学旦那原キャンパス教養教育棟2階会議室1

出席理事: 岡村, 杉山, 河合, 本原, 竹田, 松尾, 田代, 幸村, 茂山, 柏川, 吉川, 梅村, 山田, 太田, 仲野(以上15名)

欠席理事: なし。

また, 西野事務長が出席した。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち, 議長と署名人の確認がなされた。

議長: 岡村定矩

署名人: 竹田洋一, 本原顕太郎

I-2 前回議事録の確認(資料2, 本原)

資料2に基づき, 前回(2012年6月23日)の理事会議事録が報告・確認された。

II. 報告

II-1 前回以降の新入退会の報告(資料3, 本原)

2012年6月21日より2012年9月7日までの

間の会員変動が報告された。新入会は正会員9名、準会員13名、賛助会員1社、退会者は4名である。

II-2 事業担当理事の近況

1. 月報（柏川）：天文月報の配送をゆうメールに変更し、包装もビニール袋にする。現在見積を取っており、年度内にも変更される予定。
2. PASJ（茂山）：Oxford University Press（OUP）との業務提携の検討を続けている。すでに提携している学会にアンケートを取った所、非常に良好な関係であることが明らかになった。翌日の評議員会でも報告し、そこで承認されれば業務提携の契約に進む。また、copy editorを一名補充する予定である。
3. 天文教育（配布資料、吉川）：講師派遣プログラムの行い方を再検討しつつあり、今年度中には登録データを更新して本格的な運用に備えていきたい。講師派遣プログラムのWebサーバは、天文学会のサーバの更新に含めて考えていく。

II-3 開催中の年会に関する報告およびそれ以降の年会の進捗状況報告（仲野、幸村）

発表件数は過去4番目に多い709件である。事前支払いはスムーズに進み、2回の督促で707件が完了している。なお、80%がクレジットカード決済であった。懇親会は250名程度で、すでにキャンセル待ちの状況である。記者発表については8社が参加し、すでにNHKの朝のローカルニュースでは紹介された。

次回埼玉大学の担当者との相談は年会最終日に行う予定である。また、次回年会で日韓合同セッションを行うが、それに関しても最終日に担当者との打合せを行う。その際の韓国講演者の登録資格をどの様にするかという質問がなされ、韓国で開催した時に揃え、会員と同じ扱いにすることとした。

II-4 事務所の近況報告（資料4、西野）

特に大きく変わったことはなく、9名の事務職員と2名のPASJ校正担当で作業を行なっている。

II-5 会長候補者・代議員選挙結果報告（資料5、本原）

代議員選挙は2012年9月7日に開票を行った。有効投票数300通、有効得票総数4442

であった。ここから35名の当選者および2名の補欠を選出した。

会長候補者選挙は桜井隆氏の推薦1件のみであったため、選挙は行わずそのまま桜井氏を会長候補者とした。

- ## II-6 新法人移行について（資料6、松尾、本原）
- 内閣府からの指摘事項とその対応が説明された。大きな問題は2点。一点目は定款に法律と合致しない部分があり、その修正が必要である。これは軽微な修正とは認められず、総会での承認が必要となるが、それは新法人発足後の代議員総会でよい。ただし、その修正を行う旨理事長名で一筆書き、内閣総理大臣宛に提出する必要がある。二点目は早川基金の取り扱いで、これまでは特別会計になっていたものが遊休財産として取り扱われてしまうと公益法人認定条件を満たさなくなってしまう。これについては、決算時に指定正味財産として処理すれば問題ないこととなった。これら指摘事項の修正は既に完了しており、その後は新法人に向けての登記手続きなどを行う。それがどの様な手続きなのかを実務理事で確認することとした。

II-7 地学オリンピックへの協力依頼について（資料7、本原）

地学オリンピック日本委員会より、問題作成への協力要請が来ており、理事会としてどの様に対応すべきかを決めたいといけなことが説明された。これについてはすでに、吉川教育担当理事にもコンタクトが来ていることが明らかとなり、今後は吉川理事が対応することとした。

II-8 100周年記念事業基金残金について（資料8、本原）

100周年記念事業基金の残金で、賛助会員及び主な寄付者4名に天文学辞典を贈呈した。残額でシリーズ現代の天文学（全17巻）を47セットを購入し、希望する学校など機関を募り、そこに寄贈する予定。

III. 議題

III-1 新法人移行に伴う内規修正の承認（資料9）

1. 欧文研究報告編集委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
2. 天文月報編集委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
3. 年会実行委員会に関する内規：賛成多数で承認された。

4. 天文教育委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
5. ネットワーク委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
6. 天文教材委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
7. ジュニアセッションに関する内規：賛成多数で承認された。
8. 男女共同参画委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
9. 衛星設計コンテスト推進委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
10. 日本天文学会林忠四郎内規：賛成多数で承認された。
11. 日本天文学会研究奨励賞内規：賛成多数で承認された。
12. 日本天文学会欧文研究報告論文賞内規：賛成多数で承認された。
13. 日本天文学会早川幸男基金内規：文章を一部修正の上、賛成多数で承認された。
14. 日本天文学会内地留学奨学金内規：賛成多数で承認された。
15. 日本天文学会天文功労賞内規：賛成多数で承認された。
16. 国際会議共同主催に関する内規：賛成多数で承認された。
17. 日本天文学会天体発見賞内規：賛成多数で承認された。

今回の理事会は新法人移行後、2013年1月27日に開催される予定である。

[資料リスト]

- 資料1 理事会出欠表
- 資料2 前回理事会（2012/6/23）議事録
- 資料3 前回以降の新入・退会等会員の変動
- 資料4 事務所報告
- 資料5 代議員選挙結果、会長選挙結果
- 資料6 新法人移行手続き・内閣府への回答案
- 資料7 地学オリンピックへの協力について
- 資料8 100周年記念事業基金残金について
- 資料9 新法人の細則及び内規案
- 配布資料 講師紹介プログラム・現状と更新の概要

2012年9月19日

議 長：岡村定矩 印
 署名人：竹田洋一 印
 署名人：本原顕太郎 印

【日本天文学会評議員会議事録】

日 時：2012年9月20日(木) 12:30-13:30
 場 所：大分大学旦野原キャンパス教養教育棟2階
 会議室1

出席評議員：岡村、海部、牧島、井上、奥村、須藤、
 渡部、家、市川、犬塚、柴田、杉山
 (以上12名)

欠席評議員：伊藤、劉、嶺重、池内、佐藤、
 林(隆之)、林(正彦)、観山 (以上8名)

事前に、伊藤、劉、嶺重、池内、佐藤、林(隆之)、
 林(正彦)、観山評議員からは委任状が提出されている。

その他、河合副理事長、本原・竹田庶務理事、
 松尾・田代会計理事、幸村年会理事、茂山PASJ理事、
 西野事務長が出席した。

なお、岡村理事長と杉山副理事長は評議員を兼任し
 ている。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち、出席者と委任状あわせて20
 名で定足数を満たし、本会が成立することが
 確認された。また議長と署名人が以下のとお
 り選出された。

議 長：牧島一夫
 署名人：柴田一成、奥村幸子

I-2 前回2012年7月14日の評議員会議事録の確
 認が資料2に基づいて行われた。

II. 報告

II-1 理事会報告（本原）

本原庶務理事より、前日9月19日に行われ
 た理事会の報告がなされた。

II-2 新法人移行手続きについて（本原）

本原庶務理事より、新法人移行申請の状況が
 説明された。内閣府からの修正指示が来てい
 るが、その中でも大きな問題が二点ある。一
 つは定款の大きな修正で、それは新法人移行
 後に行うことを確約することで問題ない。も
 う一つは早川基金の取り扱いで、これは指定
 正味財産とすることで内閣府の了解をとっ
 た。これにより、新法人移行はほぼ問題なく
 なったと考えている。

II-3 会長候補者・代議員選挙結果報告（資料3、
 本原）

代議員選挙は2012年9月7日に開票を行っ
 た。有効投票数300通、有効得票総数4442
 であった。ここから35名の当選者および2
 名の補欠を選出した。これに対して、若手の

会の当選者がいないことが指摘され、推薦委員会の推薦者リストには掲載されたものの、通常よりも投票数が多かったため若手の会の投票活動が届かなかったとの説明がなされた。次回選挙時に若手の会で対策を検討することとした。

会長候補者選挙は桜井隆氏の推薦1件のみであったため、選挙は行わずそのまま桜井氏を会長候補者とした。

II-4 開催中の年会に関する報告および今後の年の進捗状況報告（幸村）

幸村年会理事より、開催中の年会について、順調に進んでいる旨報告された。また、次回の年会は埼玉大学で2013年3月20日-23日に開催される予定で、準備も順調に進んでいる。ここでは日韓合同セッションも開催される。それ以降の開催地は、2013年秋季年会は東北大学で9月10日-12日、2014年春季年会は国際基督教大学で3月19日-22日が予定されている。

II-5 日本学術会議関連報告（須藤）

須藤評議員（日本学術会議会員）より、学術会議の最近の状況について報告があった。我が国の宇宙政策のあり方と宇宙科学の推進についての提言書を半年かけて取りまとめ、6/27に提出した。また、大規模計画のマスタープランの一環として、中規模計画（10-100億円規模）についてもとりまとめる。現在研究者団体に11月締切でプロジェクトの推薦依頼をしており、その後ヒアリングとシンポジウムを行う。

II-6 IAU 報告（配布資料、岡村）

岡村評議員よりIAU北京総会の簡単な報告がなされた。

III. 議題

III-1 PASJのOUPへの製作販売委託の承認（資料4、茂山）

茂山PASJ理事より、学会誌の製作販売をOxford University Press (OUP) へ委託することについての説明がなされた。前回の評議員会で要望が出ていたOUPに委託している他の学会へのアンケートの結果、回答があったすべての学会において良好な評価を得ていることが明らかになり、大きな問題はないことが確認された。前回懸念を表明していた複数の評議員からも安心したとのコメントが出された。以上の議論を踏まえ、PASJのOUP

への製作販売委託が全会一致で承認された。

III-2 新法人移行に伴う内規修正の承認（資料5、本原）

1. 欧文研究報告編集委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
2. 天文月報編集委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
3. 年会実行委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
4. 天文教育委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
5. ネットワーク委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
6. 天文教材委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
7. ジュニアセッションに関する内規：賛成多数で承認された。
8. 男女共同参画委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
9. 衛星設計コンテスト推進委員会に関する内規：賛成多数で承認された。
10. 日本天文学会林 忠四郎内規：賛成多数で承認された。
11. 日本天文学会研究奨励賞内規：賛成多数で承認された。
12. 日本天文学会欧文研究報告論文賞内規：賛成多数で承認された。
13. 日本天文学会早川幸男基金内規：寄付者の氏名を明示して良いかを確認することを条件として、賛成多数で承認された。その後、岡村理事長が寄付者に連絡をとり、問題がないことを確認した。
14. 日本天文学会内地留学奨学金内規：賛成多数で承認された。
15. 日本天文学会天文功労賞内規：賛成多数で承認された。
16. 国際会議共同主催に関する内規：賛成多数で承認された。
17. 日本天文学会天体発見賞内規：賛成多数で承認された。
18. 上記内規について、表現の軽微な修正については理事会に一任することを承認した。

今回が日本天文学会の最後の評議員会となる予定である。

[資料リスト]

資料1 評議員会出欠表

資料2 前回評議員会（2012年7月14日）議事録

資料3 代議員選挙結果, 会長候補者選挙結果
 資料4 PASJ編集委員会からの議案
 資料5 新法人の内規案
 配布資料 IAU報告

2012年9月20日

議長: 牧島一夫 印
 署名人: 柴田一成 印
 署名人: 奥村幸子 印

日本天文学会総会議事録

日時: 2012年9月20日(木) 16:00-17:20
 場所: 大分大学旦野原キャンパス第二大講義室

I. 出席者確認

出席者の確認の結果, 事前投票総数(会場参加者との重複は除く)が300名, 委任状提出者が22名, 会場参加者は168名だった。なお, 会場参加者のうちで事前投票したものは, 事前投票を無効とした。有効出席者総数は490名で, 定足数(正会員総数1767名の1/5=354名)を満たしていることを確認した。

II. 議長及び署名人

議長は規約に則り岡村理事長が務めた。次に, 署名人として森 正樹, 大藪進喜の両氏が選出された。

III. 議事

- 第1号議案: 本原庶務理事が資料3に基づき, 2012年度事業計画書(案)の説明を行った。賛成多数で承認された。
- 第2号議案: 松尾会計理事が資料3に基づき, 2012年度決算報告書(案)の説明を行った。新法人移行に伴い会計基準が変わり, 一般会計・特別会計の区別がなくなること, 15ヶ月予算を組むため, 会費も1.25倍になること, 支出については事業によっては経費が2倍になるものがあるため, 旧一般会計分(公益一般事業+法人会計)で350万円の赤字予算が組まれていることが説明された。これに対し, 賛助会員や団体会員の会費も1.25倍になると支出が難しい団体もある, という指摘がなされた。現在の新細則ではそのようになるが, 支払いを柔軟に対応するなどの運用で対応できないか理事会で検討することとした。また, 予算の項目名に軽微な誤字が複数指摘され, 修正することとした。以上の議論の末, 賛成多数で承認された。
- 杉山副理事長が, 新法人移行後の細則及び内規

の体系の概要を説明した。天体発見賞細則は他の賞にあわせて内規に変更されること, 委員会の設置根拠は内規ではなく, より上位の細則で行うようにすること, などが説明された。

- 第3号議案: 『会長・副会長・理事・監事選考細則(案)』が賛成多数で承認された。
- 第4号議案: 『役員の報酬及び費用に関する細則(案)』が賛成多数で承認された。
- 第5号議案: 『日本天文学会委員会等に関する細則(案)』が説明された。途中, 委員会名が重複していることが指摘され, 来年2月に開催される予定の代議員総会で修正することとした。以上の議論ののち, 賛成多数で承認された。
- 第6号議案: 『会費に関する細則の修正案』が賛成多数で承認された。
- 第7号議案: 評議員選挙施行細則の廃止が賛成多数で承認された。
- 第8号議案: 理事長選挙施行細則の廃止が賛成多数で承認された。
- 第9号議案: 天体発見賞に関する細則を廃止が賛成多数で承認された。なお, 天体発見賞については同日行われた評議員会で承認された『日本天文学会天体発見賞内規』で規定されることが説明された。

IV. 報告

- 代議員選挙結果報告(末松)
 末松選挙管理委員長が資料1に基づき, 新法人の代議員選挙結果を報告した。投票締め切りは2012年9月6日, 翌9月7日に開票を行った。有効投票数300通, 有効得票総数4442であった。ここから35名の当選者および2名の補欠を選出した。得票順位の奇偶で任期が決まるため, 同票の場合には抽選で順位をつけたことが説明された。これに対し, 補欠の任期がいつまでになるかという質問がなされ, 長い方の任期が適用されるため3年3ヶ月となることが説明された。
- 会長候補者選挙結果報告(末松)
 引続き末松選挙管理委員長が資料2に基づき, 新法人の会長候補者選挙結果を報告した。桜井隆氏一名のみが推薦されたため, 細則に基づき投票を行わず, 桜井氏を会長候補者としたことが説明された。その後, 桜井氏が短い挨拶を行った。
- 新役員, 委員候補者(本原)
 資料3に基づき, 2012年1月に代議員総会に提案される新理事会の候補者及び, 各種委員会の

委員が紹介された。

4. 宇宙開発利用の新体制について (井上)

井上 一氏より、宇宙開発利用体制の現状が報告された。基本的には春の総会時に説明したとおりになっており、内閣総理大臣が本部長を務める宇宙開発戦略本部が統括する。また、宇宙開発利用部会が文部科学省に設置され、従来からの宇宙開発委員会が行ってきた審査を引き継ぐ。宇宙での学術研究をボトムアップ的に進めるためには、この宇宙開発利用部会がしっかりしないといけない。

5. IAU 報告 (岡村)

岡村理事長 (日本学術IAU分科会委員長) より、2012年IAU北京総会の報告があった。北朝鮮、エチオピア、カザフスタンが新たに加盟すること、日本から推薦した73名が新個人会員として承認されたこと、海部宣男氏が2012-15年期の会長に選出されたこと、IAUのDivisions構成の改訂が承認されたこと、総会にかかる決議で科学的な内容に関するものについては、今後総会不参加の会員も投票できる電子投票が導入されることが可決されたことなどが報告された。また、口頭論文発表に占める日本人の割合は5%であり、会員に占める割合約6%から見ると余り多いとはいえない。今後の総会により積極的に参加するよう呼びかけがなされた。

6. 日本学術会議報告 (須藤)

須藤 靖氏より、日本学術会議の報告がなされた。我が国の宇宙政策のあり方と宇宙科学の推進についての提言書を半年かけて取りまとめ、6/27に提出した。また、大規模計画のマスタープランの一環として、中規模計画(10-100億円規模)についてもとりまとめる。現在研究者団体に11月締切でプロジェクトの推薦依頼をしており、その後12月、1月に分科会でその一部のヒアリングを行い、最終的に2013年2月17、18日にシンポジウムを行う。

7. 以上をもって、特例社団法人日本天文学会としての定例総会はすべて完了した。最後に、岡村理事長が音頭を取って全員で一本締めを行い、終了した。

[資料リスト]

資料1 代議員選挙結果

資料2 会長選挙結果

資料3 [議案リスト] 日本天文学会2013年度事業計画書案、2013年度収支予算書案、会長・副会長・理事・監事選考細則、役員の報酬および費用に関する細則、日本天文学会委員会等に関する細則、会費に関する細則、評議員選挙施行細則の廃止、理事長選挙施行細則の廃止、天体発見賞に関する細則の廃止と日本天文学会天体発見賞内規
[報告事項] 次期役員・委員候補者

2012年9月20日

議長: 岡村定矩 印
署名人: 森 正樹 印
署名人: 大藪進喜 印

日本天文学会2012年秋季年会報告

2012年秋季年会は、9月19日(水) から21日(金)の3日間、大分大学(大分県・大分市)にて口頭講演会場10、ポスター会場7を使って開催された。講演件数は口頭講演が464件、ポスター講演が245件であり、合計709講演であった。年会参加者は897名であった。また、以下に報告するように、通常セッションに加え、企画セッション2件と、特別セッション1件、ジュニアセッション、天文教育フォーラムが開催された。開催地理事の仲野誠氏のほか大分大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、順調に進行した。

座長は次の58名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表す(敬称略)。

	9月19日(水)		9月20日(木)		9月20日(火)	
	11:00-13:00	15:00-17:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30
A会場	村上敏夫 (金沢大学)	川端弘治 (広島大学)	住 貴宏 (大阪大学)	渡部潤一 (国立天文台)	山岡 均 (九州大学)	諸隈智貴 (東京大学)
B会場	山村一誠 (ISAS/JAXA)	左近 樹 (東京大学)	坪井昌人 (ISAS/JAXA)	瀬田益道 (筑波大学)	岡 朋治 (慶応大学)	田中邦彦 (慶応大学)
C会場	佐藤文衛 (東京工業大学)	樽家篤史 (東京大学)	市來浄興 (名古屋大学)	大内正己 (東京大学)	岡村定矩 (法政大学)	戸谷友則 (京都大学)
D会場	前田啓一 (東京大学)	田中雅臣 (国立天文台)	横山央明 (東京大学)	今田晋亮 (国立天文台)	鹿野良平 (東京工業大学)	浅井 歩 (京都大学)
E会場	神戸栄治 (名古屋大学)	永山貴宏 (名古屋大学)	早野 裕 (国立天文台)	縣 秀彦 (国立天文台)	大西浩次 (長野高専)	矢動丸 泰 (みさと天文台)
F会場	大藪進喜 (名古屋大学)	森 正夫 (筑波大学)	大西利和 (大阪府立大学)	久野成夫 (国立天文台)	亀野誠二 (鹿児島大学)	伊王野大介 (国立天文台)
G会場	江副祐一郎 (首都大学東京)	田中孝明 (京都大学)	粟木久光 (愛媛大学)	山田 亨 (東北大学)	和田武彦 (ISAS/JAXA)	中澤知洋 (東京大学)
H会場	杉谷光司 (名古屋大学)	梅本智文 (国立天文台)	前澤裕之 (大阪府立大学)	富阪幸治 (国立天文台)	中島 拓 (名古屋大学)	
I会場	峰崎岳夫 (国立天文台)	林田 清 (大阪大学)	長尾 透 (京都大学)	長沢真樹子 (東京工業大学)	生駒大洋 (東京大学)	竹内 拓 (東京工業大学)
J会場	嶺重 慎 (京都大学)	田代 信 (埼玉大学)	小嶋康史 (広島大学)	北本俊二 (立教大学)	野上大作 (京都大学)	

〈記者会見〉

秋季年会の前日、9月18日(火) 16:00から、大分県庁・県政記者室にて行われた。岡村定矩理事長からの挨拶と日本天文学会秋季年会の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関8社の出席があった。10月9日までに確認できたもので、テレビニュースにて1件、新聞等で12件の報道があった。

●研究発表

- (1) 人類史上最高の視力でみる超巨大ブラックホールからの噴出流
記者会見出席者：秋山和徳（東京大学・大学院生）ほか
関連する講演番号：S15a, S16b
- (2) 太陽と惑星間空間の活動の関係
記者会見出席者：柴崎清登（国立天文台・教授）
関連する講演番号：M02a
- (3) 日本における金環日食（2012年5月21日）への取り組みとその成果についてーリスク・コミュニケーション面からの検証ー
記者会見出席者：縣 秀彦（国立天文台・普及室長）ほか

関連する講演番号：Y26a, Y09a, Y14b, Y15b, Y23a, Y24a, Y25a

〈特別セッション報告〉

【次世代赤外線天文衛星SPICA特別セッション】

「SPICA特別セッション」は、9月21日(金) 15:20から16:30まで、B会場において開催された。SPICA (Space Infrared Telescope for Cosmology & Astrophysics) は、口径3.2 mの望遠鏡を搭載する次世代赤外線天文衛星である。望遠鏡を絶対温度で6Kまで冷却することにより、中間・遠赤外線領域において、圧倒的な高感度を達成する。日本がリードする国際共同ミッションであり、欧州、韓国、台湾が参加し、米国も参加を検討中である。2022年の打上げを目指している。

SPICAでは、プロジェクト化に向けた衛星仕様決定のための活動の一環として、観測装置の国際レビューを進めており、来年の2月には焦点面観測装置の仕様が決定する。この重要な時期にあたり、SPICAの「目指す科学」と「その実現のために必要な観測装置の仕様」について、広くコミュニティーに問うために、今回の特別セッションを開催した。

特別セッションでは、JAXA・中川貴雄、松原英雄によるミッションの状況の説明に続いて、(1) 銀河誕生のドラマ (京都大学・長尾透)、(2) 惑星系のレシピ (ASIAA・高見道弘)、(3) 宇宙の物質循環 (名大・金田英宏) の三つの主要テーマについて、その目的と必要な観測装置仕様について、活発な議論が行われ、参加者から実現に向けて強い期待が表明された。特別セッション全体の司会は、東北大学・市川隆が務めた。この議論は、今後のSPICA計画の方針と観測装置仕様の決定とに反映していく予定である。

秋季年会期間中の最終日の最後の時間ということで、参加者が十分に集まるかという心配が開催前にはあった。しかし、参加者は150名を優に超え、立ち見も出るほどであり、SPICAに対する天文学会会員の非常に強い期待をひしひしと感じた。

(中川貴雄, 松原英雄, 市川 隆)

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催で、年会初日の9月19日(水) 17:00からB会場にて開催し、約100名の参加があった。「広がる宇宙の空間理解への対応～新学習指導要領における天文分野～」をテーマに、主に義務教育課程における理科の天文分野の学習内容における現状と課題について、3名の方からの話題提供をもとに、現状の理解と議論を行った。国立天文台の渡部潤一さんからは、教科書執筆の経験から、前回の学習指導要領からの改訂で、文章の記述量や内容の拡充が大きくできるようになったこと、教員向けのデジタルコンテンツや指導案などを教科書会社のWebページに掲載するなどして、空間的理解を図りやすくしていることなどが紹介された。愛知教育大学の高橋真聡さんから、学生や教員の指導の経験から、さまざまな教材や事例などが紹介されている一方で、創造・想像の力量により指導や理解に生かし切れていない状況が紹介された。また、現在では映像やITツールにより、空間的概念を子どもたちが早い段階から理解し発展できる可能性についても提言された。長野高専の大西浩次さんから、子どもたちや教員に金環日食の指導を行った立場で、子どもの発達段階による空間認識の状況について、具体的な感想などをもとに紹介いただいた。そして早期からの広い空間認識を図ることの有効性と、学校現場に向けて早期から天文現象や観察日程のアナウンスなどを行っていく必要性について提案があった。討論では、旧学習指導要領からの課題として、論理的な思考力や作文能力など、より広い観点からの見直しも重要であることなどが意見として挙げられた。今後の推移にも注目しながら、引き続き天文学

会および天文コミュニティ内で連携して、学校への天文教育普及活動を行っていく必要性を確認した。

(安藤享平)

〈企画セッション〉

【多波長偏光】

企画セッション「次世代の多波長偏光サイエンス」は、年会1日目の午前・午後にてA会場にて行われた。偏光は電磁波の基本的な性質であり、空間分解できないような小さな領域の幾何学や非等方性、磁場の構造や天体の3次元的な運動など、他の観測手法では得られないユニークな知見をもたらす。最近になって、大型望遠鏡による可視・赤外線での偏光観測から、クエーサーや星形成領域、超新星爆発等の構造の理解が進んだ。また中小口径望遠鏡による観測や人口衛星によるガンマ線の観測で、ブレーザーやガンマ線バーストなどの突発天体の偏光観測に目覚ましい成果が出ている。惑星円盤の検出や太陽磁場の理解でも、偏光観測はなくてはならない手段となっている。今まさに、より高精度で多波長の偏光観測が始まろうとしており、現在行われている観測を総括し、今後計画されている実験の相互理解を測ることが重要と考えて企画された。午前は、主にAGNやGRBにおける偏光を統一的に理解するために、大阪大学の眞賢二氏による「ジェット天体の偏光理論」の基調講演で始まり、9件のa講演が行われた。午後は、主に惑星や太陽における偏光を主題に、国立天文台の田村元秀氏による基調講演「惑星形成現場の偏光観測」で始まり、7件のa講演と5件のb講演、3件のポスター掲示が行われた。テーマが多波長であるだけに企画に難しい面もあったが、星や太陽の可視・X線偏光観測からGRBのガンマ線、KEKの羽澄氏によるマイクロ波の偏光観測まで、分野横断的な参加者があった。どの時間帯でも約70名程度の参加者があり盛況であったが、他分野や他波長の偏光観測は、すぐには理解しがたい面もあり、参加人数の割には質疑応答が少なかった気もする。まだまだ認知が少ない新しい分野として大いに盛り上げていきたい。今後、偏光を計ることが当たり前な時代が来ると話し合った。

(村上敏夫)

【時間領域の天文学】

企画セッション「時間領域の天文学」は、年会2, 3日目午前・午後にてA会場にて行われた。国際天文学連合 (IAU) コミッション6 (天文電報委員会) 委員長である山岡 均氏による時間変動天体の情報流通の現状の紹介に始まり、電波・光赤外・X線 γ 線および重

力波におよぶ多波長・多媒体天文観測とそのデータ解析について、基調講演11件を含む全28件の講演が行われた。講演で扱われたトピックは、太陽系内天体のアウトバーストから、近傍の恒星フレアや変光星、系外惑星のトランジット観測や重力マイクロレンズ現象、銀河系内のX線連星やパルサー、系外銀河での超新星や潮汐破壊現象、さらには遠方宇宙の活動銀河核やガンマ線バーストなど、多岐にわたる。波長域においてもサイエンスのテーマに関しても、通常のセッションではまず見られない多様な研究者が一堂に会する貴重なセッションとなり、さまざまな突発天体や変動現象について100名ほどの参加者によって活発な議論が交わされた。

(河合誠之)

〈懇親会〉

懇親会は学会2日目の9月20日(木)に、大分大学旦野原キャンパスの生協食堂で開催した。参加者数は、事前予約214名(一般145, 学生69)、当日申込の参加者は35名(一般17, 学生18)、および招待の関係者を含めて合計262名の参加で、食堂の収容人数のほぼ限界の盛況であった。

まず、岡村定矩理事長の挨拶があり、大分大学への開催支援と最小規模のLOCへの謝意を表された。続いて、大分大学の嘉目克彦理事による歓迎の意と大分の先哲の話を伺った。その後、8月の北京でのIAU総会で会長に就任されたばかりの海部宣男氏による乾杯の発声により懇親会が始まった。今回の年会は、海の幸が豊富な大分の地ということで閑さば・閑あじに期待をもった参加者が大勢おられると予想された。そこで中央卸売市場内に店を構えるお寿司屋さんに来ていただき、新鮮な地元産の魚を握っていただいた。また地元出身の天文学者「麻田剛立」にちなんで麦焼酎などの紹介もあった。参加者からは期待を裏切らず、たいへんよかったとの評判をいただき、主催者としても喜ばしいものであった。

最後に次回開催地である埼玉大学の田代 信氏から埼玉での学会の参加への呼びかけ等があって、用意された大分駅行きの5台のバスに分乗して散会となった。

(仲野 誠)

〈保育室〉

保育室は大分大学教育福祉科学部の臨床指導室を使用した。3家族、子供4名の利用があった。

(峰崎岳夫, 米倉覚則)

〈ジュニアセッション〉

ポスター講演のみを募集し、4件の発表があった。うち1件は生徒の参加もあり、ポスター会場で活発な議論が行われた。内容は、日食2件、惑星組成1件、銀河団1件と多岐にわたった。ポスターへのコメントを収集し、発表者に送付した。ポスター会場をご準備いただいた開催地の方々に感謝する。

(山岡 均)

〈公開講演会〉

公開講演会は、研究セッションの翌日の9月22日(土・祝)13:30~17:00に、大分駅より徒歩5分の大分市コンパルホール1階文化ホールにて、「天地の動きから現代の惑星像へ」というテーマで行われた。250名を超える熱心な来場者に恵まれた。また大分天文協会のご協力で、天体写真がロビーで展示された。山岡均天文教育委員の司会により、岡村定矩理事長の挨拶に続き、3名の講師による講演が行われた。最初は東京大学の鹿毛敏夫さんによる「麻田剛立と江戸の天文学」と題した講演で、大分県出身で大坂で活躍した、江戸時代中期の在野の天文学者麻田剛立について、その業績や位置づけが詳細に紹介された。次に、京都大学の柴田一成さんによる「宇宙の中の地球と太陽-太陽でスーパーフレアは起きるのか?」と題した講演があった。太陽面活動についてくわしく紹介され、今年研究が発表され大きな関心を呼んだスーパーフレアが解説された。最後は、国立天文台の田村元秀さんによる「第二の地球を求めて」と題した講演で、近年の惑星探査と今後の展開について興味深い紹介が行われた。いずれの講演に対しても質疑応答が活発に行われ、特に年少者の質問が印象的であった。今回もアンケートを実施し、133件の回答を得た。アンケートは今後も継続して実施し、今後の宣伝方法やプログラム編成の参考としたい。なお、本企画は、大分大学、大分工業高等専門学校、大分県教育委員会、大分市教育委員会、大分合同新聞、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送の後援で実施された。

(山岡 均)

(年会実行委員長: 幸村孝由)

代議員選挙結果

新法人となる公益社団法人日本天文学会の発足時・代議員（任期2013年度または2013年度～2015年度）の選挙の開票を9月7日に行いました。有効投票数300通、無効投票数（締切後に届いたもの）31通、有効投票数のうち、有効得票総数4,442、無効得票総数6、白紙1552でした。代議員選挙施行細則・第10条により、当選者は得票順に決めました。代議員選挙施行細則・附則により、当選者のうち得票数が奇数順位のもの任期を3年3カ月、偶数順位の者の任期を1年3ヶ月、得票数が同じものが複数存在して順位が定まらない場合、選挙管理委員会の抽選により順位を定め、また、当選しなかったものうちで2番目までの得票のものを補欠とする、に従い以下の表のように当選代議員及び補欠代議員が決まりましたので報告します（代議員選挙施行細則・第11条）。

選挙管理委員会委員長 末松芳法

表1. 当選代議員.

任期2013年度～2015年度の3年3カ月の代議員*注(1)			任期2013年度1年3カ月の代議員*注(2)		
順位	氏名	得票数	順位	氏名	得票数
1	岡村定矩	133	2	杉山 直	122
3	渡部潤一	118	4	佐藤勝彦	106
5	海部宣男	104	6	観山正見	97
7	柴田一成	97	8	牧島一夫	95
9	奥村幸子	94	10	土居 守	93
11	田村元秀	90	12	太田耕司	82
13	河合誠之	81	14	山田 亨	81
15	小久保英一郎	80	16	林 正彦	78
17	半田利弘	77	18	縣 秀彦	71
19	常田佐久	70	20	桜井 隆	68
21	望月優子	65	22	寺澤敏夫	64
23	市川 隆	64	24	芝井 広	63
25	梅村雅之	63	26	富阪幸治	61
27	吉田道利	61	28	吉田直紀	60
29	馬場 彩	59	30	藤沢健太	58
31	井上 一	57	32	百瀬宗武	57
33	吉川 真	55	34	長尾 透	55
35	福井康雄	53			

表2. 補欠代議員.

順位	氏名	得票数
36	藤田 裕	49
37	中井直正	47

*注(1), (2): 新代議員の任期は、選挙後の公益法人移行時の会計年度の変更などにより、(1)については「2012年度～2015年度の3年3カ月」、(2)については「2012年度～2013年度の1年3カ月」とします。

会長選挙結果

2013年年初の理事会で決定される会長候補者*注の選挙について、新定款第17条および理事長選挙施行細則（以下、細則）に基づき、結果を次のように報告します（細則第8条）。会長候補者は桜井 隆氏1名だったため、細則第5条により投票は行わず、桜井隆氏を会長候補者としました。

選挙管理委員会委員長 末松芳法

*注: 本選挙結果報告後に発生した公益法人移行スケジュールの修正により、「2012年11月26日に開催が予定されている臨時総会で決定される新会長候補者」とします。

(社)日本天文学会へ2012年7月21日～2012年10月20日に入会された方、移籍された方、退会された方をお知らせします。

正会員入会 (8名)

川崎将平	筑波大・大学院数理物質科学 (在学)	田崎 亮	京都大・大学院理 (在学)
大橋聡史	東京大・大学院理/国立天文台 (在学)	武田佐和子	埼玉大・大学院理工 (在学)
佐藤 有	東京大・大学院理/JAXA・宇宙科学研究所 (在学)	藤田真司	筑波大・大学院数理物質科学 (在学)
和泉 究	東京大・大学院理 (在学)	鯨島寛明	JAXA・宇宙科学研究所

準会員入会 (14名)

備前光正	長野県在住	田原隆吏	アトリエ スパークル
奥上将光	近畿大学付属和歌山高校・中学	杉谷康雄	大阪府在住
金子慶子	国立天文台	戸田伸一郎	(株)光学技研
池田勝彦	公務員	佐久田健司	東京都在住
蛭川 立	明治大・情報コミュニケーション	北枝俊則	東京都在住
川室太希	京都大・大学院理 (在学)	河野健太	高千穂学園小林西高
木戸英治	東京大・宇宙線研究所	岡田 隆	京都大・理 (在学)

移籍会員

[準→正] (2名)

高木俊暢	JAXA・宇宙科学研究所	今田晋亮	名古屋大・太陽地球環境研究所
------	--------------	------	----------------

正会員退会 (3名)

堀江光典 Siddiqua, Portia 佐藤 通

編集委員会より

2013 年表紙デザイン決定

応募作品の中から編集委員会で選考の結果、今年と同じEskaさんのデザインを採用させていただくことになりました。お楽しみに！

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字と) **vol98** (5文字) の計10文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

柏川伸成(編集長), 市来浄與, 勝川行雄, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 廣田朋也, 前野将太, 山崎 了

平成24年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献社

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©社団法人日本天文学会2012年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)